

## 持続可能な社会、組織、環境のために ~21世紀にオリックスが目指す企業像

**オリックスは、これからも社会に新しい価値を提供し、  
社会から必要とされる存在であり続けます。**

オリックスは1964年の創業当初から、「新しい価値を創造する」と「自分の足で立つ」という考え方を基本としています。そして、企業活動を通じて経済と社会に貢献するという考えのもと、常に新しい価値を創造して社会に提供し、その結果として得た評価が利益になるという循環を通して成長してきました。今後も社会に新しい価値を提供し、そして社会から必要とされる存在であり続けるために、創造的イノベーションを追求してまいります。

**EC21**  
Excellent Company

オリックスでは、「21世紀におけるExcellent Company」として、「オリックスが目指す企業像」を明確化した「EC21」を定めています。

### 誇り

**市場に高く評価される新しい価値の創造によって  
経済的なインパクトを生み出し、「誇り」ある活動を行う企業。**

企業の社会的な機能は、経済にプラスとなるものを世の中に向かって作り出すことです。これが企業本来の役割であり使命です。この使命をより高い次元で果たし、社会の役に立つこと、このことにオリックスは企業としての「誇り」を持ちたいと考えています。

### 信頼

**株主・お客さま・従業員などを含め社会の多様な期待に応える  
高い能力と謙虚な姿勢を持ち、関係する人々から「信頼」される企業。**

企業の存在・発展を支え、かつ直接的に大きな関わりを持つのは、株主、お客さま、従業員をはじめとするステークホルダーです。オリックスでは、ステークホルダーの皆様からの期待だけでなく、社会の期待にも応えて、国際基準を超える企業を目指します。おごらず謙虚な姿勢を保ち、さまざまな期待に応え、皆様から「信頼」される企業になりたいと考えています。

### 尊敬

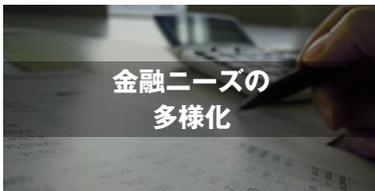
**社会的な規範を守り、公正かつ透明な活動を行う優れた社風を持ち、  
社会との調和を保って、広く世の中から「尊敬」される企業。**

企業行動の中に社会的な規範に反する問題が起きれば、その企業に対する評価はすぐに崩れ去ります。法律を守ること以上のより高い基準で行動し、その基準をオリックスの成長とともに高めていくことで、広く世の中から「尊敬」される優れた社風を作っていきたいと考えています。



## 社会の課題とオリックスの取り組む価値創造

### 社会の課題とニーズ



### オリックスの取り組む価値創造

- 支店網を生かし、全国の中小企業に事業資金を提供
- 地域金融機関へ保証提供し、中小企業への資金供与を促進
- 経営課題や事業承継のためのソリューションを提供
- 事業エリアの拡大や海外進出を支援

- 日本各地の有名老舗旅館の再生による観光客の呼び入れ
- 地方の廃校を利用した植物工場開設による雇用創出
- 地方自治体と連携し空港跡地をメガソーラー事業に活用
- 知的創造拠点「ナレッジキャピタル」の運営を通じ関西経済を活性化

- 新しい金融サービスの提供
  - ・ プロジェクトファイナンス
  - ・ カードローン
  - ・ 不動産投資用の住宅ローン
  - ・ 合同運用指定金銭信託
  - ・ 企業間決済システム
  - ・ 動産担保融資

- 法人向けにメンテナンス付自動車リースを提供
- 個人向けにさまざまな期間や車種を選択できるマイカーリースを提供
- 簡便に短時間の車両利用が可能なカーシェアリングサービス
- 3万種を超える多種多様な機器のレンタル

- 生活、介護、医療サービスを連携させた有料老人ホームの運営
- アクティブシニア対象の高齢者向け賃貸住宅の運営
- グループのシニア人材活用策を推進(キャリアデザイン研修、社内公募)
- 定年を65歳に延長し、勤務形態の選択肢を拡大

- 再生可能エネルギー事業の推進(詳細はp.59)
- 工場・建物の省エネルギーを実現する包括的サービス(ESCO)の提供
- 事業者向けに割安な電力を供給(電力小売)
- マンション居住者向けに電気利用料金を削減する電力一括購入サービスを提供

- 廃棄物を完全に再資源化できる最先端処理施設の運営
- 品質の高い金属素材を選別する金属系廃棄物処理施設の運営
- 不用物の回収、リサイクル、適正処理を全国で提供するネットワークの構築
- 良質な中古レンタル機器の販売、「オリックス認定中古車」としてリース終了車両を販売



## 環境およびエネルギーに関する取組

事業活動を通じて「創る」と「使う」の両輪で社会に貢献します。



### メガソーラー事業の全国展開

自治体や企業などが保有する全国の有休地を賃借し、最大出力1MW以上の大規模な太陽光発電所(メガソーラー)の開発を進め、発電事業を行っています。2014年3月期末までに合計214物件、最大出力425MWの開発に着手しました。これらのプロジェクトにおける年間の予想総発電量は約4億6,521万kWhで、一般家庭約129,200世帯分\*の年間電力消費量に相当します。

\* 1世帯当たり年間3,600kWhで試算。

出典：電気事業連合会「電力事情について」

### 地熱・風力等の新エネルギー事業の推進

太陽光のみならず、地熱、風力、バイオマス発電などの再生可能エネルギーを活用した発電事業を積極的に推進しています。グループで運営している「杉乃井ホテル」(大分県別府市)では、自家用では国内最大級の規模となる最大出力1.9MWの地熱発電所を保有、運営しています。また、群馬県では木質チップ専焼発電の「吾妻木質バイオマス発電所」を運営しています。

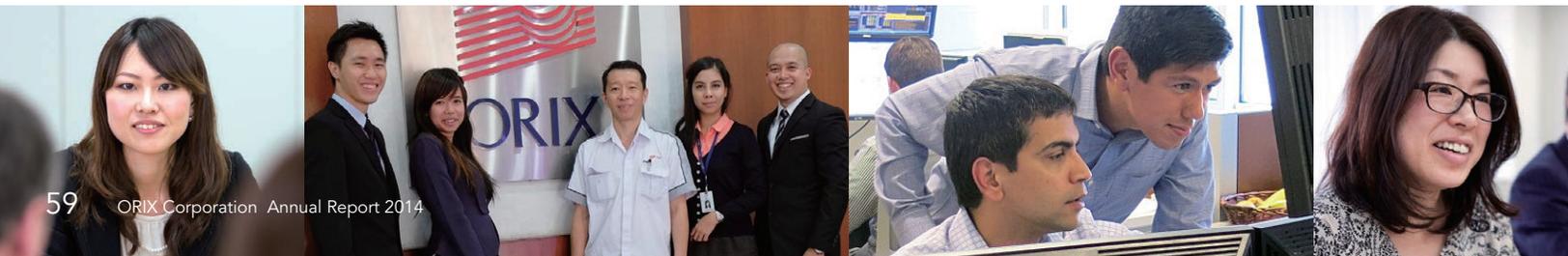


### 太陽光発電システム販売

メーカーからの機器の直接仕入れや全国の工事会社とのネットワークによるスケールメリットを生かし、割安な価格でお客さまのシステム投資をサポートします。オリックスは複数メーカーからの機器選定やリース、割賦、立替払、レンタルなどお客さまに合わせた調達方法や固定価格買取制度の設備認定取得サポートなど、設置から導入後のメンテナンスまでをワンストップで提供し、お客さまの円滑なシステム導入を支援します。

# 創る

枯渇しないエネルギーへの挑戦



## 環境方針

オリックスグループは、お客さまや社会のニーズを捉え、ビジネスを通じて環境・エネルギー問題の解決に貢献します。また、事業領域の拡大・成長による変化を踏まえ、これに適った対応を進めます。

オリックスグループが提供するエコサービスやグループのエコ活動は下記をご参照ください。

● エコサービスガイド ▶▶▶ [http://www.orix.co.jp/grp/env\\_soc/environment/report.html](http://www.orix.co.jp/grp/env_soc/environment/report.html)

# 使う

環境配慮型社会の実現に向けて

## 蓄電システムレンタルサービス

オリックスおよび日本電気株式会社(NEC)、株式会社エプコが共同で設立したONEエネルギーは、蓄電池レンタルと電力の見える化、節電をサポートするアプリケーションを組み合わせた家庭向けエネルギーサービスを展開しています。災害発生時の非常用電源を確保するだけでなく、電力の見える化と最適な電力使用方法の提供により、電力利用料金の削減や昼間の最大需要電力の抑制(ピークカット)にも貢献します。



## 自動車の環境配慮型トータルサービス

車両管理台数108万台と国内の自動車リース業界No.1の実績を誇り、お客さまの利用形態に合わせて、リース、レンタカー、カーシェアリングを組み合わせることで、最も合理的な車両の利用方法を提案します。また、自動車には欠かせないメンテナンスサービスからエコドライブを推進するテレマティクスサービス、車両の処分に至るまで、車のライフサイクルの各時点で環境負荷低減やCO<sub>2</sub>排出量の削減、環境意識の醸成に役立つサービスを総合的に提供します。

## 環境配慮型不動産事業

環境性能の高い住まい・オフィス・商業施設・物流施設などの不動産開発に取り組んでおり、太陽光発電システムの導入、外構や壁面の緑化、自然光の利用、長寿命照明の採用を行っています。ゴルフ場、ホテルなどの運営施設では環境負荷低減に取り組んでおり、ゴルフ場では空調、給湯、ナイター設備の更新、照明のLED化、刈り取った芝の堆肥化による植栽への利用などを、ホテルでは堆肥化した食品残渣を使用した農産物を購入して食品残渣リサイクル率向上などを行っています。このように、建物の省エネルギー化やCO<sub>2</sub>排出量の削減を図り、循環型社会、自然共生社会の構築をサポートしています。



持続可能な社会、組織、環境のために



## 価値創造の源泉 ～組織・人材

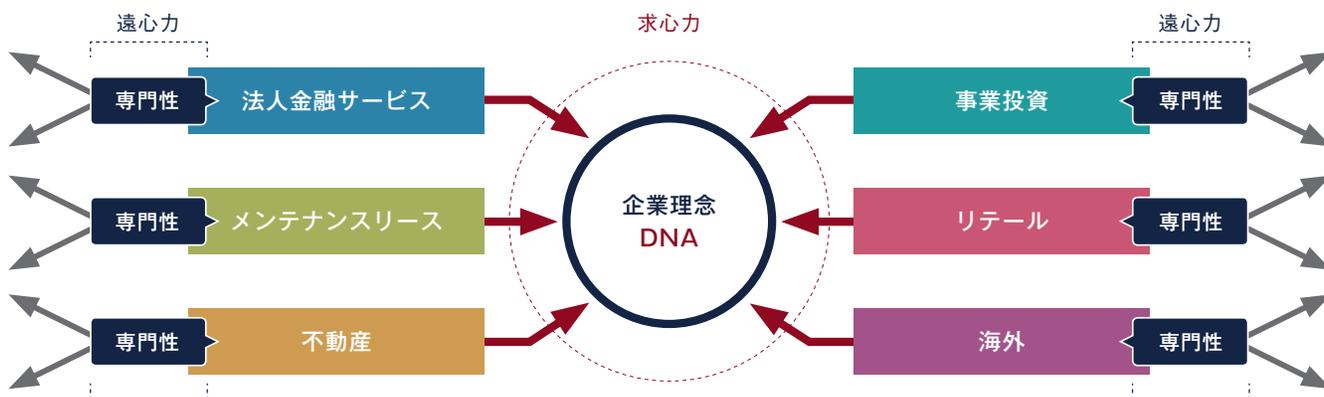
### 多様な個性が有機的に結びつき、新たな価値を創造

#### コングロマリットではないユニークな組織体

オリックスには数多くの事業があり、それぞれが高い専門性を持ち合わせていますが、コングロマリットのような独立した事業の集合体ではありません。各事業が有機的に結びつくことで、より力を発揮し、新しい付加価値を生み出せることが特徴であり強みです。この強みを最大限に生かすために、組織運営においても高い専門性を備えた人材によるチームプレーの促進を図っています。各事業部門の専門性の高まりによって既存の事業領域の外に向かおうとする「遠心力」と、オリックスのDNAを中核とした「求心力」

とを組織の中でバランスさせ、さらに大きなプラスアルファを生み出すことを目指しています。

事業ポートフォリオの拡大に伴い、運営事業、環境エネルギー事業など、金融以外の幅広い分野の専門性を持った人材がオリックスグループに加わり、活躍しています。2014年3月末において社員総数に占めるキャリア採用入社の社員は40%<sup>\*1</sup>、2014年3月期のキャリア採用は227名<sup>\*1</sup>です。

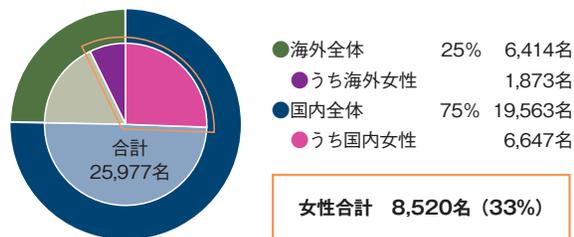


#### 女性の活躍推進

オリックスでは、男女雇用機会均等法の施行(1986年)以前から、重要な人材戦略の一環として、女性を積極的に登用しています。2014年3月には、女性人材の活用を積極的に進めている

企業として東京証券取引所が選定した「なでしこ銘柄」に選ばれました。女性管理職比率の高さや、女性の社外取締役および執行役員を1名ずつ登用している点が特に評価されました。

従業員構成比(2014年3月31日)



女性管理職比率<sup>\*1,2</sup>

14%

ワーキングマザー比率<sup>\*1,3</sup>

31%



\*1 2014年3月末、オリックス(株)を含む国内グループ会社10社を対象とする

\*2 女性管理職比率:管理職に占める女性管理職の比率

\*3 ワーキングマザー比率:女性社員に占めるワーキングマザーの比率

## 真に「豊かな社会」のために ～オリックス宮内財団の活動 より良い社会、未来ある子どもたちのためにできることを全力で

### 代表理事メッセージ

戦後60年以上を経て、日本は経済大国と言われるまでに成長を遂げ、経済的豊かさを享受するまでに至りました。一方、社会的に今まで考えられなかったような犯罪が多発するなど、真に「豊かな社会」とは何か、現在問われています。

オリックスグループは社会のニーズにお応えするため、新しい価値と環境の創造を目指し企業活動を推進してまいりました。しかし、それだけではカバーしきれない社会福祉、将来を担う子ども・青少年の支援、環境保全などの分野でも貢献できることがあると考え、2006年4月に「オリックス社会貢献基金」を設立して以来、さまざまな支援活動を行ってきました(2010年に公益財団法人に移行)。

社会的責任は企業だけでなく、社会を構成している一人ひとりにも求められています。責任ある大人が自覚をもって行動すれば、社会は変わっていくはずで、その手助けや延長線上に、企業の果たすべき役割があると考えています。

オリックスグループが設立した企業財団として、真に「豊かな社会」の実現に寄与することを目的に、これからも支援活動を継続してまいります。

公益財団法人オリックス宮内財団  
代表理事

宮内義彦

### 児童養護施設の子どもたちや障がい児・者、東日本大震災被災者家族を、球場・水族館・ホテルに招待

オリックス・バファローズ公式野球や年一回行われるファンフェスタ、オリックスグループの運営するすみだ・新江ノ島・京都の各水族館やホテルに、子どもたち、障がい児・者、東日本大震災被災者家族をご招待しています。水族館では社員ボランティアが参加して招待者の見学をサポートしています。



新江ノ島水族館



野球観戦でジェット風船を飛ばす子どもたち

### 海外での支援

一般財団法人国際センターの協力を得て、2007年度、2008年度にタイ東北地方に教育センター2校の建設を行いました。また、2010年度からは同校の児童向けに「ダルニー-ORIX奨学金」制度を実施し、中学卒業までの奨学金を提供しています。

2013年度は、フィリピン中部を襲った台風への支援として、フィリピンにある合弁会社ORIX METRO Leasing and Finance Corporationと共に、被災者の方の救済や被災地の復興に役立てていただくための義援金として、総額430万ペソ(約1,000万円)の支援を行いました。



支援している校内での表彰式の様子



奨学金制度で支援している児童

詳細情報は下記をご参照ください。

- オリックスグループの人材戦略 ▶▶▶ <http://www.orix.co.jp/grp/jinjikanren.html>
- 社会貢献活動 ▶▶▶ [http://www.orix.co.jp/grp/env\\_soc/social/](http://www.orix.co.jp/grp/env_soc/social/)

